

令和3年度 事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

学校法人白井学園

目次

1. 法人の概要

- (1) 白井学園 建学の精神・教育目的・教育目標・教育方針について
- (2) 法人の沿革について
- (3) 設置する学校・学科について
- (4) 学校・学科等の入学定員、学生数について
- (5) 役員・評議員・教職員の人数について

2. 事業の概要

- (1) 各学校・学科基本情報及び事業活動(資格合格率・就職率等)
- (2) 学生募集
- (3) 教育
- (4) 就職
- (5) 組織体制

3. 自己点検・評価の概要

4. 財務の概要

1. 法人の概要

(1) 白井学園 建学の精神・教育目的・教育目標・教育方針について

建学の精神

★

「一に人格 二に技術」「あきらめない あきらめさせない みんな可能生」

創設者であり、剣道範士であった白井久雄が、昭和22年2月8日、富山文化服装学院の開校式で「剣は心なり 心正からざれば 剣も正しからず 剣を学ばんと欲すればまず心を学ぶべし」と挨拶したなかで、専門技術教育においても、人として何よりも心を重視し、人間味豊かな人材を育成し、あきらめずに学生一人一人の可能性を引き出すという建学の精神が、現在に至っているものである。

教育目的

教育基本法及び学校教育法に従い、専修学校教育を行い、社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

教育目標

専門的知識・技術を修得するとともに、創造性に富む人材育成を図り、地域社会へ貢献できるスペシャリストを養成する。

教育方針

学生一人ひとりの「好き」という思いを「仕事」というかたちで実現するために、それぞれの個性を尊重し、人を思いやる心、感謝の心を育て、自らの良さや可能性に出会える環境づくりを行い、絶対にあきらめない、あきらめさせない強い精神力と努力する力を磨き育てる。

(2) 法人の沿革について

昭和22年(1947年)	富山文化服装学院創立
37年(1962年)	学校法人白井学園設立
40年(1965年)	富山県立雄峰高等学校白井学級(家政科)併設
42年(1967年)	新校舎完成(3号館)
49年(1974年)	学校法人白井学園 自治大臣表彰
51年(1976年)	専修学校法に基づく学校法人立専門学校として認可 富山文化服装専門学校創立 富山県で初めてパリコレクションを主催
52年(1977年)	イギリス「WEST DEAN COLLEGE」と姉妹校提携
54年(1979年)	富山県の私学で初めて教育功勞により富山県知事表彰
56年(1981年)	北陸ビジネス専門学校創立(1号館完成) 産業能率短期大学(通)併修校に指定
58年(1983年)	学校法人白井学園明るい選挙推進若人の会 自治大臣表彰
60年(1985年)	北陸ビジネス専門学校にコンピュータ学科新設
62年(1987年)	学校法人白井学園40周年記念式典挙行
63年(1988年)	北陸ビジネス専門学校が、通産省「情報化人材育成連携機関」 委嘱校、文部省「職業教育高度化開発研究」指定校となる。 産能短期大学(通)「教育交流校」となる
平成元年(1989年)	富山文化服装専門学校を「富山デザイン専門学校」へ改名
2年(1990年)	北陸ビジネス専門学校が、文部省「専修学校開放講座」委嘱 校となる
4年(1992年)	ウイーン特別州知事の招聘によりウイーンの舞踏会から世界 に向けて和紙ファッションを公開
5年(1993年)	北陸ビジネス専門学校とイタリアフィレンツェ市立経営科学専 門学校が姉妹校提携
6年(1994年)	北陸ビジネス専門学校に「医療秘書学科」を新設
9年(1997年)	学校法人白井学園、創立50周年記念式典挙行 北陸ビジネス専門学校に厚生大臣指定の介護福祉士養成施 設として「介護福祉学科」を新設(7号館) 北陸ビジネス専門学校を北陸ビジネス福祉専門学校と改名
10年(1998年)	北陸ビジネス福祉専門学校に「マルチメディア学科」を新設
12年(2000年)	福祉用具専門相談員指定講習会開催
13年(2001年)	新校舎2棟完成(2号館・8号館)
14年(2002年)	北陸ビジネス福祉専門学校に厚生労働大臣指定の精神保健

平成15年(2003年)	福祉士一般養成施設として「精神保健福祉学科」を新設 富山デザイン専門学校に厚生労働大臣指定の美容師養成施設として「ビューティーアート学科」を新設(6号館完成)
16年(2004年)	作品展示館「白井千穂子記念館」完成
18年(2006年)	富山自動車整備専門学校開校 国土交通大臣指定「自動車整備士養成施設」となる(新校舎・実習棟完成)
26年(2014年)	厚生労働大臣指定「介護福祉士実務者研修講座」を開講
29年(2017年)	学校法人白井学園創立70周年
令和 2年(2020年)	富山デザイン・ビューティー専門学校 ビューティーアート学科を白井美容専門学校 美容学科と改名
3年(2021年)	医療秘書学科新校舎完成

(3) 設置する学校・学科について (令和3年5月1日現在)

- ・北陸ビジネス福祉専門学校
 - 医療秘書学科 昼間2年制
 - 介護福祉学科 昼間2年制
 - 精神保健福祉学科 昼間1年制

- ・白井美容専門学校
 - 美容学科 昼間2年制

- ・富山自動車整備専門学校
 - 自動車整備学科 昼間2年制

(4) 学校・学科等の入学定員、学生数について(令和3年5月1日時点)

北陸ビジネス福祉専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
医療秘書学科	19名	20名	95.0%	37名	40名	92.5%
介護福祉学科	26名	40名	65.0%	45名	80名	56.2%
精神保健福祉学科	20名	20名	100.0%	20名	20名	100.0%
計	65名	80名	81.2%	102名	140名	72.8%

白井美容専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
美容学科	13名	20名	65.0%	21名	40名	52.5%
計	13名	20名	65.0%	21名	40名	52.5%

富山自動車整備専門学校

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
自動車整備学科	39名	40名	97.5%	61名	80名	76.2%
計	39名	40名	97.5%	61名	80名	76.2%

学園全体

学科名	入学者数	入学定員	充足率	在籍者数計	収容定員	収容定員充足率
合計	117名	140名	83.5%	184名	240名	76.6%

(5) 役員・評議員・教職員の人数について(令和3年5月1日現在)

・役員

理事 6名(うち、理事長1名、常勤理事1名)

監事 2名(うち、常勤監事0名)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	任期
理事長	白井千威子	非常勤	3年
理事	安本義信	非常勤	3年
理事	高村正志	常勤	3年
理事	萬谷正子	非常勤	3年
理事	田中雅子	非常勤	3年
理事	福井淳夫	非常勤	3年
監事	津幡正夫	非常勤	3年
監事	富山定子	非常勤	3年

・評議員13名(うち、常勤評議員9名)

・教職員

北陸ビジネス福祉専門学校

専任教員10名、兼任教員32名、職員5名

白井美容専門学校

専任教員7名、兼任教員6名、職員4名

富山自動車整備専門学校

専任教員5名、兼任教員0名、職員4名

2. 事業の概要

年度当初に掲げた基本方針・重点目標のもと、計画を立案し、事業を実施した。学校法人白井学園は令和3年度、専修学校3校5学科を有する。学園全体の学生数は、令和3年5月1日時点で、184名在籍している。

(1) 各学校・学科基本情報及び事業活動(資格合格率・就職率等)

各学科基本情報及び事業活動については、別紙1～5を参照とする。

(2) 学生募集

今年度の学生募集(令和3年度入学者数)は、法人全体で117名(前年比132%)であった。その中で、北陸ビジネス福祉専門学校の介護福祉学科留学生の募集について、昨年度に引き続き、5名(ベトナム国籍、モンゴル国籍、中国国籍)の入学となった。また、教育環境の向上として、医療秘書学科においては、専用棟の建設、美容学科においては、最新の設備(シャンプー機器)の導入を行い、広報活動の一助とした。併せて、Withコロナ時代を念頭に、再度経済的支援制度の見直しや、本校の情報取得を容易にするため、公式 LINE による情報告知強化等を積極的に行った。

(3) 教育

各学科Withコロナを意識しながら、一部外部実習を学内実習へ切り替えることもあったが、感染防止対策を徹底し、教育活動を行った。また、キャリア教育を強化し、産学連携を積極的に授業に組み込んだ。実際に、病院、施設、サロン等へ出向いての実習授業や学内ヘディーラーの方、サロンオーナーの方等を招聘して実際の現場技術の講習等を踏まえ、教育の資質の向上を行った。基礎力と応用力を培い、各学科主要資格の合格率は、全学科で全国平均を上回る結果を達成した。

また年度途中に、医療秘書学科専用棟の建設、美容学科への最新設備(シャンプー機器)の導入が完了し、新たな教育展開の実践を開始した。

(4) 就職

今年度卒業時の就職内定率は学園全体で95.2%であった。卒業後も就職に向けた

相談体制を設けて、フォローアップを行うこととなった。その結果、卒業時は未内定だった者も、就職に結びつく等の一定の成果を得た。就職指導については、履歴書指導、面接指導を行うとともに、メイクアップセミナー、着こなしセミナー、電話対応セミナーと実施した。また、卒業後の就業状況等の把握を行うためのプログラムも実施した。卒業生の現状や在学時の就職サポートの振り返りを継続的に行うシステムができ、今後活用していく。就職指導の中に卒業生の状況も含め、在学生の将来像と併せた指導を行っていく必要がある。

(5) 組織体制

学園内に、広報、教務、行事研修、職業実践専門課程の部門にて委員会を設置し、PDCAサイクルを徹底した。また、経営会議、委員長会議、総務課会議、全体会議を定期的実施して、教職員間にて各事案の共通認識を徹底した。

3. 自己点検・評価の概要

年度当初の度事業計画に基づき、健全な学校運営、教育活動および個性の輝く学生支援のために、特に次の項目に重点を置いて、点検・評価項目の見直し等を行い、関係部署(各学科・各委員会・事務局)との連携を強化した。また、定期的に計画(P)・実行(D)・点検(C)・分析改善(A)を行った。

・養成施設等の自己点検・評価について

養成施設指定の自己点検表等により全学科で実施し、教務委員会において評価し、必要に応じて改善を行った。

・教職員の資質向上について

教職員のFDを実施し、学園教職員による事後研修により、意見交換し資質の向上を図った。

・学生による学校評価調査について

在学生を対象に実施し、より良い教育環境となるように順次、空調・給排水設備(エアコン、トイレ自動水栓・洋式化等)やネットワークの構築等の改善をするとともに、今後の対応等を協議した。

・個人情報管理の徹底について

学園内で保有する個人情報について、ネットセキュリティの更新・施錠等の一括管理を徹底した。

・情報公開について

令和2年度の事業報告等をホームページで公開した。

・学校関係者評価の実施について

学校関係者評価委員会を開催し、専門分野の業界や企業・関係団体、卒業生の方々から教育活動や学校運営等の反映するべき貴重な意見・助言をいただき、その内容結果について、学校関係者評価報告書として公表した。

*令和3年度自己点検・評価報告書、学校関係者評価報告書は、別添を参照とする。

今後において、教育活動・教育環境のより充実を図るため、社会のニーズを的確に認識した将来構想(中期計画・長期計画)を設定し、より健全な学校運営に推進することが必要である。

4. 財務の概要

質の高い専門学校教育を継続するためには、経営基盤の安定が不可欠であり、早期に自らの経営上の課題等を把握し、経営状況の分析を適切に行った上で、自らの進むべき方向性の検討・判断材料としたい。

下記詳細については、別添を参照とする。

・学校法人会計財務比率について

・財務諸表について

事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書

以上